

「動物たちにみられる、人と同じ眼の病気」

One World One Health

動物と人で力を合わせて眼の病気を治しています。

鳥取大学農学部附属動物医療センター獣医神経病腫瘍学分野

准教授 伊藤典彦

人と動物には原因遺伝子が同じ、すなわち同じ病気がみられます。全身の病気に限らず、眼の病気もたくさん共有しております。人と動物が協力して病気を克服した例が既にあります。人レーバー先天黒内障の遺伝子治療法の開発です。レーバー先天黒内障とは、見た目には何ら異常がみられないものの、夜になると見えにくくなる病気です。子供たちの暗いところでの行動の異常に、親が気づいて病気が発見されます。ブリアードというワンちゃんの家系に人と同じ RPE65 の異常で同様の病気を発症する家系がおりました。人への遺伝子治療はまずブリアードたちで検証されました。現在、人の子供たちが遺伝子治療を受け病気を治すことができる様になりましたのもブリアードたちの協力があったからに他ありません。

人と同じ眼の病気が動物たちにみられます。

我々の身近にいる愛玩動物達には、それぞれ人と同じ眼の病気を持っているものがおります。M.ダックスフンドやトイプードルの網膜変性、柴犬の緑内障、秋田犬の原田病、トイプードルの白内障、パグの角膜炎等、枚挙に暇がありません。獣医療では人医療で蓄積された知識・技術・経験を活用させていただき病気を治しています。白内障には水晶体再建術、緑内障にはチューブシャント術を実施しております。動物たちは、人眼科学に助けられてきました。そして今、ブリアードの例のようにお返しすることも出てきました。人と動物が力を合わせて病気を克服し、共に健やかにこの地球上で生きてゆけることを祈っています。

One World One Health

近年 “One Health” という言葉を耳にする機会が増えてまいりました。人の健康、動物の健康、環境の保全のためには、三者の全てを欠かすことができないという認識に立ち、それぞれの関係者が “One for All, All for One” の考え方に基づいて緊密な協力関係を構築し、活動していこうとする理念です。人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を担っています。医師と獣医師は、科学的知識を持ち、専門的訓練を受け、法に定められた義務を遂行するとともに、人と動物の健康と環境の維持に係る幅広い活動分野において、業務に携わる機会と責任を有しています。動物医療センター眼科でもこの理念に賛同し、尽力できればと考えております。